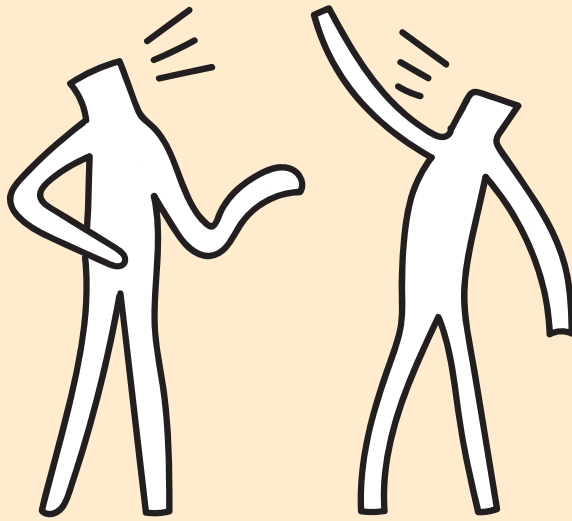


ご近所付き合いの再生



近年、近隣住民同士の付き合いがますます希薄化している。ご近所付き合いを再生させることでコミュニティ形成をはかり、住民の幸福度が上がると考えた。

また近所のコミュニティが生まれることにより、子供の虐待や孤独死を防ぐことも期待できる。

ご近所付き合い再生のために対策を考える

対策として思いついたのは全国無数に点在する小規模な街区公園を再整備することである。

この小規模な街区公園には課題がある。私の知る限りでは公園面積が小さければ小さいほど公園は利用されていない。無数に点在する小規模公園の数が増えた要因としては面積が0.3ヘクタール以上の開発行為にあたっては、開発面積の3パーセント以上の公園、緑地又は広場の設置が義務付けられているためである。つまり小さな開発（分譲住宅など）をすれば小さな公園ができる。

また公園全体の課題として、公園数の数が約60年間で25倍となったにもかかわらず

2021年度の維持管理費はピーク時の9割にとどまっており

一つの公園の維持管理費が少なくなっているのが分かる。

維持管理費の解決策としてPark-PFIなどの公園に出店した企業の収益を再整備に充てる制度があるが面積の小さな街区公園では難しい。かといって公園を集約して再編成するのは現実的には厳しい。

つまり小規模公園の課題は「無数に点在しているにもかかわらず利用されない」と「維持管理」である。

この小規模な街区公園を再整備し、なおかつご近所付き合いの場を再生できれば

まさに一石二鳥！！！！

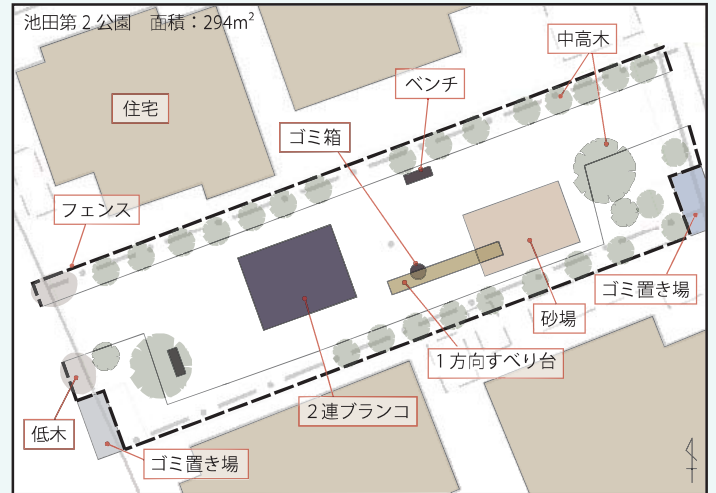
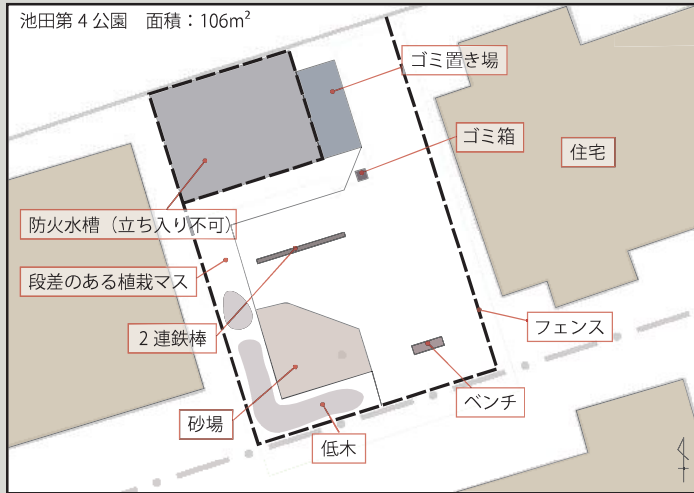
具体的なプラン

前述のように小規模な街区公園は全国無数に点在している。

その中でもご近所付き合い再生に関わる戸建て住宅に隣接する小規模公園を再整備したい。

例として糸島市の公園を挙げ、改良プランを考えた。

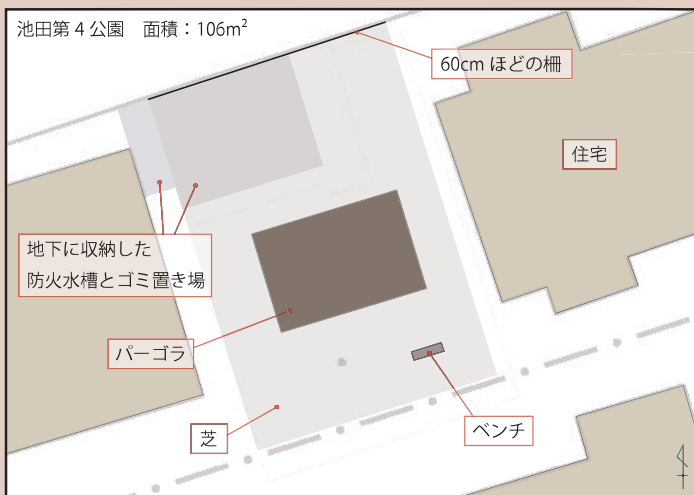
現状の小規模な街区公園（平面図）



特徴

- ・フェンスや植栽に囲まれており、入口が限られ、なおかつ外から内への視認性が悪い
- ・老朽化の進んだ遊具が設置されている
- ・立ち入り不可の防火水槽やゴミ置き場が多くの面積をとっており
公園入り口付近に設置され、視認性をさらに悪くしている
- ・一段あがった植栽マスがある

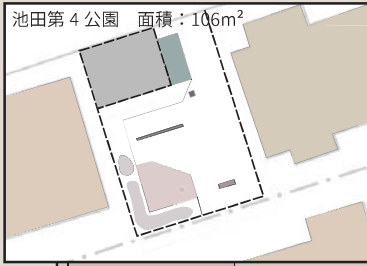
提案する再整備した小規模な街区公園（平面図）



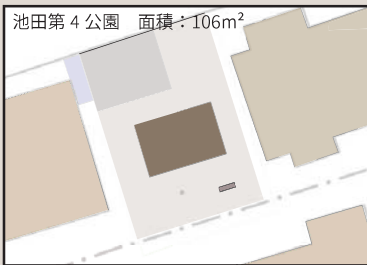
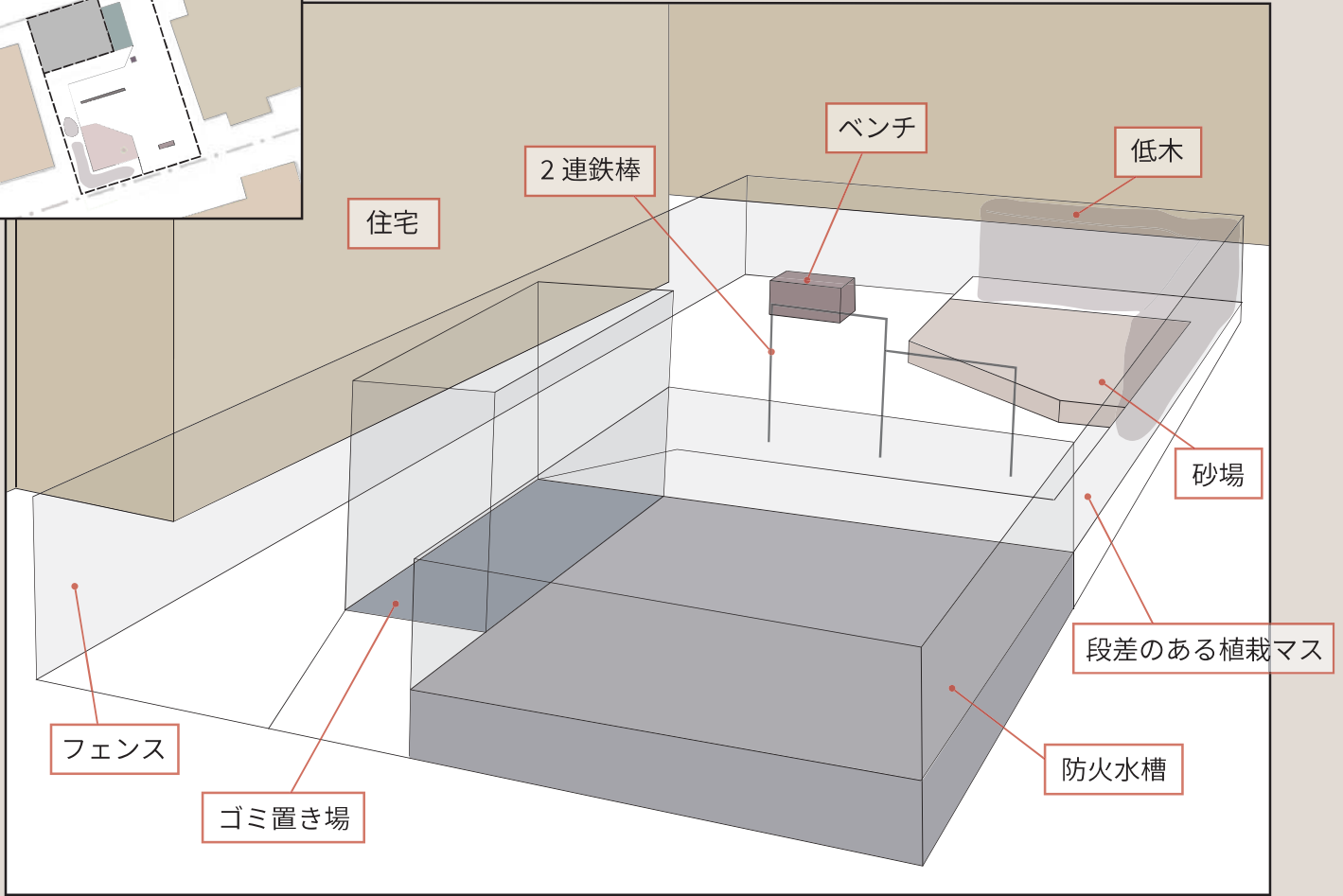
特徴

- ・フェンスを無くすことで全方向から公園に侵入できる
 - ・地面を芝にすることで開放感を生み、また近隣住民の「庭」化をはかる
 - ・防火水槽、ゴミ置き場を地下に収納することで、公園面積の拡大および視認性確保を実現
 - ・道路に面している箇所には幼い子供の飛び出しを防ぐ 60cm ほどの柵を設置
- ※近隣住民の残して欲しい遊具やベンチ、植栽は残す

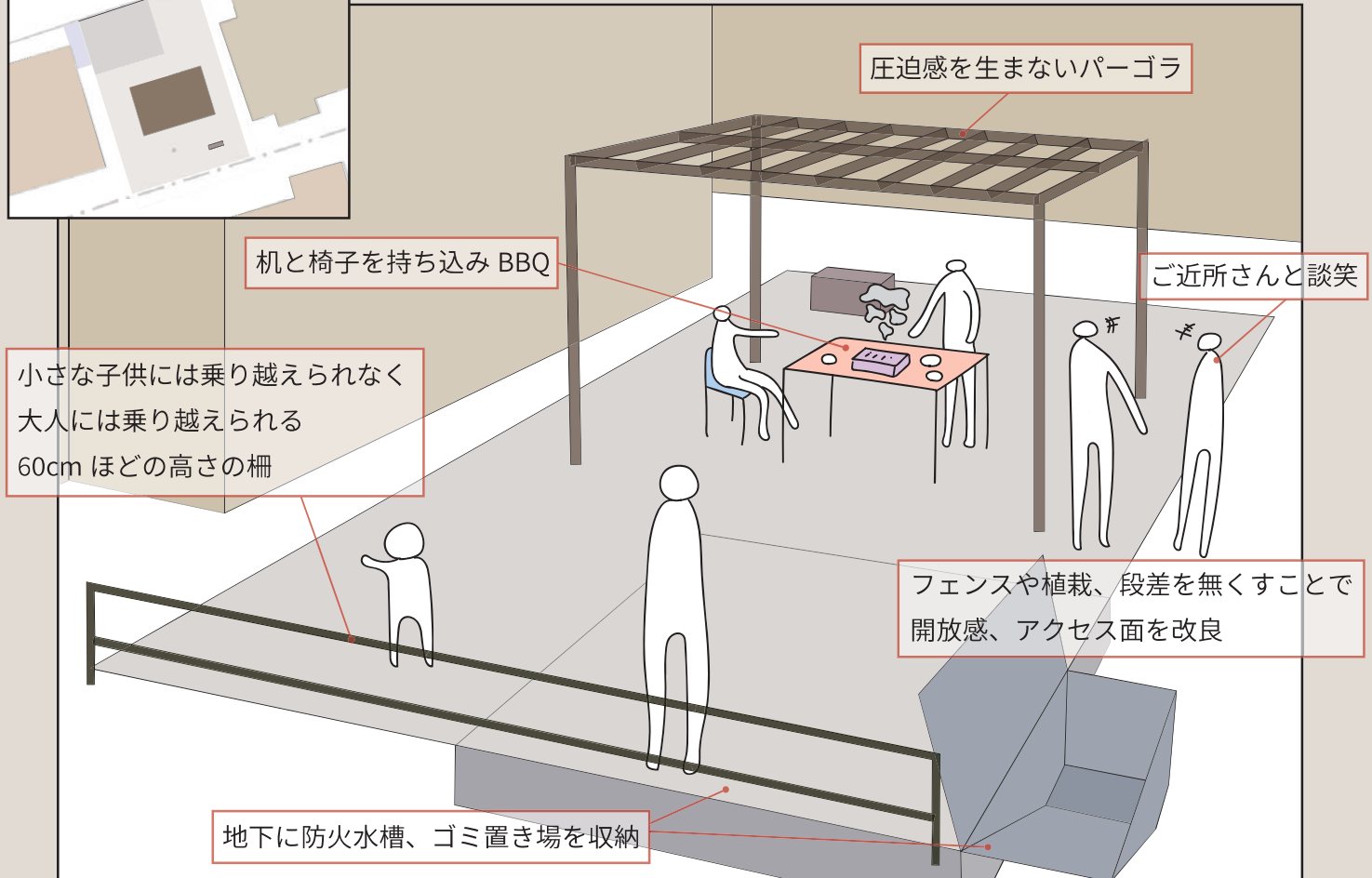
現状と再整備後 (提案プラン) の公園の様子 (立面図)



現状



再整備後 (提案プラン)



住民参加型の公園内ルールづくり

公園周辺に住んでいる住民がルールを作成する。

公園から少し距離のある住宅に住む人も希望があればルールづくりに参加してもよい。

そして決まったルールを公園内に貼る。

ルールの例

〇〇公園のルール

- ・花火、BBQ は公園に面した家から許可をもらえる場合、許可する
- ・テーブル、椅子は持ち込み可（※その都度片づける）
- ・花壇で野菜を育てるのは可
- ・22 時以降公園利用禁止
- ・今月は ×× 家と△△家が掃除担当

まとめ

フェンスを撤去したことにより、隣接するもしくは周辺の**住民の公園へのアクセスが良くなり**防火水槽やゴミ置き場を地下に収納すること、遊具を撤去することで公園および庭として**利用できる面積を確保できる。**

（※小規模な公園に遊具を設置しても、その遊具だけで遊ぶことしかできないので、遊びが継続せず、あまり意味のないものと考えた）

これらを撤去および見えなくすることにより**公園内の視認性が改良され開放感が生まれる。**

また、使用者自らがつくるルールにより自由度が増し、**使いやすく愛着のある公園（庭）になる。**そのぶん維持管理も彼らが行う。

そして近隣住民（近所の人）が集うようになりコミュニティが生まれ日々の生活が豊かなものになる